

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4086 号 2017.12.18 発行

中堅介護福祉士の月給 8 万円増へ 政府「人づくり革命」決定

福祉新聞 2017 年 12 月 18 日 編集部

政府は 8 日の臨時閣議で、安倍政権の看板政策である「人づくり革命」と「生産性革命」を実現するための政策パッケージを決定した。幼児教育、保育の無償化を柱とするが、保育、介護、障害福祉の人材確保に向けて処遇改善を図ることも盛り込んだ。介護人材確保のための規制緩和策として、介護福祉士を取得した外国人技能実習生の在留資格を認める方針も明記した。処遇改善にはあいまいな点も多く、詳細は今後検討される。

政策パッケージの柱は 2020 年度までの幼児、高等教育の一部無償化だ。19 年 10 月の消費税率 10% への引き上げによる増収を主な財源とする。

3～5 歳児については、幼稚園、認可保育所、認定こども園の費用を無償化。認可外の保育施設を対象とするかどうかは 18 年夏まで検討する。

0～2 歳児は、保育所の待機児童対策が喫緊の課題だとし、無償化は当面、住民税非課税世帯にとどめる。

幼児教育無償化は 19 年 4 月に一部開始し、20 年 4 月から全面实施する。

また、保育人材の確保のため、保育士の給与を 17 年度の人事院勧告に伴う加算に加え、19 年 4 月から月 3000 円引き上げる。

介護、障害分野でも人材不足に対応する。介護人材の処遇改善は、勤続 10 年以上の介護福祉士（推計 22 万人）に公費（国・地方）1000 億円と同額の介護保険料を投じ、月額平均 8 万円上げる。

政府はこれまで月額 4 万 7000 円の処遇改善を図ったとするが、それとは別に約 8 万円の賃上げに踏み切る。勤続 10 年以上の介護福祉士に限定せずに処遇改善する含みも残した。対象を広げた場合、1 人当たりの賃上げ額は小さくなる。

「10 年以上とは同一事業所での勤続年数を指し、介護福祉士を取得してからの年数ではない」（厚労省幹部）という。賃上げ対象者の範囲と金額など詳細は今後詰める。報酬改定を経て 19 年 10 月の開始を目指す。

障害福祉人材についても別途財源を用意して同様に引き上げる。

政策パッケージの財源には消費税率 10% への引き上げで見込まれる約 5 兆 6000 億円の増収のうち、1 兆 7000 億円分を回す。企業が負担する子ども・子育て拠出金を 3000 億円増額し、計 2 兆円を政策パッケージに充てる。

消費税増収分の使い道は 13 年 12 月に社会保障改革のプログラム法で定めているが、教育無償化は対象外だ。

今回の政策は使い道を変えることで初めて成り立つもので、与党内からも疑問視する声がある。

この点に関連し、梶屋敬悟・衆議院議員（公明党）は 11 月 24 日の衆院厚労委員会で「プログラム法に基づく改革工程表がぐちゃぐちゃになって私は相当混乱している。プログラム法の見直しが必要だ」と指摘した。

幼児教育無償化をめぐるのは、保育の質の向上・量の拡充に必要な追加財源（3000

億円超)の確保が先決だとする意見が保育団体から上がっている。

人づくり革命には規制緩和策も入った。

外国人技能実習生が介護福祉士国家試験に合格しても、現行制度では日本での在留資格はないが、今回これを改めるとした。

在留資格を認めることに否定的だった法務省は方針転換を迫られた格好で、「どのような条件で認めるかこれから検討し、省令を改正する」(入国管理局)としている。

【介護人材関係団体コメント】

◆石本淳也・日本介護福祉士会長

介護福祉士に焦点化した賃上げはとても価値がある。一方で、より現実的な運用により、介護人材全体の賃上げにつながってほしい。実務を積んで介護福祉士を取得した外国人技能実習生が自国で技能を生かした上で、再度、日本で介護人材として働くことを望むならばそれは否定できない。

◆澤田豊・日本介護福祉士養成施設協会長

介護福祉士の名称に着目して賃上げされることはありがたい。しかし、初任給を手厚くしないと人が介護施設などに集まらない。外国人技能実習生であっても、介護福祉士国家試験に合格した人には在留資格を認めてもいいと思う。当然、介護の質が担保されることが前提だ。

「静岡県ふれあいの翼」解散へ 障害者と家族の旅行支え37年



静岡新聞 2017年12月18日
最後の旅行で記念撮影をする参加者＝11月中旬、沖縄県の古宇利大橋付近(静岡県ふれあいの翼協議会提供)

解散を前に話し合う松村知見さん(右から2人目)らボランティアスタッフ＝12月上旬、静岡市葵区の県総合社会福祉会館

障害者と家族が楽しめる旅行を約37年間にわたり企画・運営してきたボランティア団体「静岡県ふれあいの翼協議会」が、今月で解散する。障害者からは根強いニーズがあるが、ボランティアスタッフの減少や高齢化で活動の継続が難しくなった。障害者や家族だけでは敬遠してしまう宿泊旅行で、これまでに延べ5千人の障害者の夢を後押ししてきた。

同団体は障害者の社会参加促進を目的に1981年に発足。肢体や聴覚、視覚、知的など、どのような障害であっても参加を受け入れてきたという。車椅子での移動や食事、風呂、トイレなど多様な介助が必要のため、団体のスタッフだけでなく、県内の福祉施設の職員にも参加してもらい活動を続けてきた。

当初は障害者と健常者の交流に主眼を置いていた旅行に、家族が参加できるようになったのは91年、障害のある息子を持つ60代の母親からの手紙がきっかけだった。「一度でいいから、家族と一緒にゆっくり美しい風景を見て感動を味わってみたい。家族で思い出し笑いができる旅行が夢です」

スタッフはそれぞれ仕事の合間に集まり、旅の準備を進める。旅行会社への手配や現地の下見を重ね、国内外で150回以上の旅行を実現した。2010年にはモンブラン、マッターホルン、ユングフラウのスイス三大名峰を訪れ、4千メートル級の雪山の壮大な景色に触れる旅を演出した。

一方、近年はスタッフの減少や高齢化が進み、「悩んだ末に団体の解散を決めた」(関係者)。最後となった11月の3泊4日の沖縄旅行には33人の障害者を含む67人が参加。両親と訪れた花井大輔さん(26)＝静岡市駿河区＝は、生まれつき四肢まひで車椅子を利用しているが、「安心して旅行できた。澄んだ海が印象的だった」と笑顔を見せる。

発足当初から活動に携わってきた理事長の松村知晃さん（68）らスタッフは、旅行後に沖縄で撮影した写真をまとめ、参加家族に送った。松村さんは「障害があっても内にこもりがちな人も、外の世界へ出たという自信が付く。家族の思い出作りのためにも、本当はまだ続けたかった」と名残惜しさを口にした。

■新たな受け皿 見つからず

「日程のコースに車椅子トイレがあるか」「最寄りの病院はどこか」「アレルギーに対応するメニューの提供は可能か」。県ふれあいの翼協議会は必ず現地の下見を行い、約250項目をチェックするなど、当事者目線の細かな対応が信頼を集めてきた。同様のサービスを用意できる旅行会社は珍しく、同協議会に代わる新たな受け皿がないのが現状だ。

参加者に提出してもらった障害調査票を参考に、スタッフは使用するトイレの便座やベッドの高さまで確認。参加者が途中で発作を起こしたため救急搬送するなど、救急車を要請したことも6回あった。理事長の松村知晃さんは「あらゆることを想定して旅に臨んできた」と振り返る。

県旅行業協会によると、障害者向けのツアーは今のところ見られないという。同協会は「障害者からの問い合わせはあるので潜在的なニーズを感じるが、食事や移動など個々のさまざまな障害に応えるサービスは難しい」と説明する。

施設利用者らにXマス料理 司厨士協会県本部 育てた野菜をプロが調理



佐賀新聞 2017年12月18日
料理を仕上げる全日本司厨士協会佐賀県本部のメンバー＝有田町のあすなろの里

県内のレストランやホテルの料理人が14日、有田町の障害者支援施設「あすなろの里」（岩永浩一施設長）で昼食を振る舞った。施設利用者ら約150人が、自分たちで育てた野菜をたっぷり使ったプロの料理を楽しんだ。

全日本司厨士協会佐賀県本部（川原純一会長）が、料理を通じた社会貢献を目指して行っており、今回で11回目。メニューは施設のクリスマス会に合わせ、ローストチキンやサツマイモのクリームスープなどを用意した。県内各地から9人がボランティアで協力。忘年会シーズンとあって、調理終了後に慌てて自分の店に帰るシェフもいた。

川原会長は「楽しんで食べてもらえたら最高にうれしい」と話し、「おいしいですか」と声を掛けながら各テーブルを回った。岩永施設長は「利用者は毎回楽しみにしている。忙しい中に時間をつくっていただき、ありがたい」と感謝した。

寒風のなかマラソン大会 “サンタ” 100人が洲本を快走



産経新聞 2017年12月18日
サンタクロースの衣装で走る参加者＝洲本市塩屋

サンタクロースやトナカイの衣装をつけて街を走る「サンタクロースマラソン in 淡路」が17日、洲本市内で開催され、寒風のなか約100人が参加した。

障害者と健常者がともに地域で暮らす社会を目指す「淡路島のノーライゼーションを実現する会」が毎年開催しており、今年で11回目。参加者らは洲本市塩屋の多目的広場をスタートし、洲浜橋を渡って折り返す約2キロのコースを40分間走る。サンタの衣装で真剣に走ったり、障害者と手をつないで歩いたり、思い思いのペースで参加できる。

ゴール後にはカレーの振る舞いやゲームなどが行われた。孫と手をつないで歩いた同市

宇原の女性（67）は「孫と毎年参加しています。障害者と健常者が一緒に走るのはいいこと。きょうは笑顔をもらいにきました」と話していた。

同会の竹内尚志代表（73）は「サンタの衣装で走るだけで皆さん笑顔になれる。子供たちも楽しそうに走るので毎年続けています」と語った。

福祉施設に聖夜のメロディー 盛岡二高コンサート 岩手日報 2017年12月18日



美しい音色や歌声を響かせる盛岡二高の生徒たち

盛岡市神明町の高齢者・障害者福祉施設「夢つむぎ城南」（佐藤幸男施設長）は16日、盛岡二高音楽部40人と吹奏楽部12人を招き、クリスマスコンサートを開いた。利用者や地域住民約70人が生徒が奏でる美しい歌声や音色に聞き入った。

音楽部はアカペラで「みかんの花咲く丘」などを披露した後、振り付けを交えてクリスマスソングを歌った。

吹奏楽部は「上を向いて歩こう」など5曲を演奏。アン

コールには両部が共演し、「見上げてごらん夜の星を」を披露した。

音楽部部長の佐藤晴乃さん（2年）は「普段私たちの公演に足を運ばない人にも歌声と元気を届けることができ良かった」と充実した表情で話していた。

そば作り 楽しい経験、あすへ一歩 自立目指す若者ら、豊岡で 兵庫



毎日新聞 2017年12月17日

自分たちで作ったそばを味わう参加者＝兵庫県豊岡市城南町で、柴崎達矢撮影

不登校やひきこもりの若者、その家族を支援する「ドーナツの会」のそば打ち大会が16日、豊岡市城南町にある会の事務所で開かれた。利用者やその家族、会のボランティアスタッフ計約30人が参加し、一緒にそばを作った。

「ドーナツの会」は2011年、NPO法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワークの中に発足。14年に現在の場所に移った。高校生以上を対象に相談に乗るほか、「若者の会」「家族の会」がイベントを開いている。

そば打ち大会は今回で5回目。参加者は、スタッフの指導でそばをこね、延ばし、包丁で切り、湯がいた

絵本読み聞かせ、家族にぬくもり 柳田邦男さん、博多区で 200人が聴き入る 福岡

毎日新聞 2017年12月17日

「絵本の力 ころろ豊かに暮らす」をテーマにしたノンフィクション作家、柳田邦男さんの講演会が16日、博多区のパピヨン24ガスホールであった。発達障害や自閉症の家族を持つ人たちでつくる団体「おもちゃばこ」が主催し、約200人が参加した。

発達障害への理解を深める 福井で講演会 中日新聞 2017年12月18日

発達障害の特徴や治療法を学ぶ講演会が十七日、福井市中央一のハピリンホールであった。福井大医学部の小坂浩隆教授が講師を務め「発達障害を治すことはできないが、周囲からの支援により本人や家族の苦痛を減らすことはできる」と語った。

小坂教授は「注意の持続が困難」「仕事を過剰に引き受けてしまう」など、発達障害の一

つである注意欠陥多動性障害（ADHD）の症状を説明。就労によって症状が現れ、大人になってから発達障害と診断される人もいと述べ「症状を理解し、得意分野を生かせる環境づくりを」と呼び掛けた。

発達障害を知ってもらい、不登校やうつ病などにつながるのを防ごうと地域活動支援センター「トゥモロー」（福井市）が初めて企画。発達障害者の家族や教員ら約二百五十人が参加した。（藪下千晶）



子育てスクール 大阪24区にも開設目指しネット募金 イクハク「児童虐待減らしたい」 /大阪

毎日新聞 2017年12月17日
クラウドファンディングでの協力を求めている「イクハク」のホームページ

子育て支援サイト「育児助成金白書（イクハク）」の運営事務局（大阪市中央区）が、子育て世代向けの制度の講座「イクハクスクール」を市内全24区に開設しようと、インターネットで募金するクラウドファンディングで協力を求めている。来年2月15日まで、開催の経費270万円のうち約167万円を集めるのが目標だ。【念佛明奈】

イクハクは各地の育児制度や相談窓口を掲載した全国初のウェブサイト。

女の子へ「自分を守る力磨こう」 予期せぬ妊娠防ぐ知識 山田佳奈

朝日新聞 2017年12月18日



朝日新聞のシリーズ「小さないのち」で、厳しい境遇のもとに生まれた子どもの命をどう守り育てていくのかをテーマにした二つの連載「みんな

で守る」「育ちを支えて」に、読者からの多くの反響が寄せられました。2回にわたってこの問題を考えます。今回は、「産み捨て」や育児放棄のような虐待を招きかねない「予期せぬ妊娠」について。性教育の出前授業 「自分を守る力」磨いて

富山県内の中学校で、医師が現実的な性教育の知識を伝える出前授業が行われています。高岡市立福岡中学校で今秋にあった3年生の授業を取材しました。

教壇に立ったのは産婦人科医の種部恭子さん。富山市で女性クリニックを開業しています。

「ある15歳の中学生が妊娠し、どうしてもよいか分からず困っていました。



ようやく決心して病院に行ったときには妊娠22週を過ぎて『中絶できない』と言われました。彼氏は会ってもくれなくなり、誰にも相談できないまま自宅で出産。赤ちゃんは置き去りにされ、亡くなりました」

種部さんは、予期せぬ妊娠が決して遠い出来事ではないこと、困ったら誰かに相談してほしいこと、友達が困っていたら「信頼できる大人に助けを求めよう」と伝えてほしいことなどを、真摯（しんし）な口調で生徒たちに語りかけました。「幸せになるために、望まない妊娠や性暴力、性感染症といった性のトラブルを避ける力をつけてください」

教える内容は具体的です＝イラスト参照。妊娠が分かるまでの期間や、人工妊娠中絶ができる期間については「4月1日に性交をすると、妊娠したかどうか判定できるのがその2週間後、中絶の期限はお盆（8月中旬）までで、クリスマスイブごろに出産することになります」などと説明します。性交した時は「妊娠1カ月」、妊娠と判定できた時は「妊娠2カ月」となり、実際の月日よりも早く進みます。「妊娠5カ月すぎまで中絶できる」と言っても、実際には性交から4カ月半で期限がきてしまいます。

妊娠検査薬については、2回分が1セットになったものを買うよう勧めます。まだ判定できない時期に使ってしまったたり、陽性反応が出た時に「判定が間違っているかもしれない」ともう一度確かめたくなくなったりする気持ちを考えてのことです。

コンドームや低用量ピル、性交後に飲む緊急避妊ピルについて、それぞれの費用や、どの方法も避妊の成功率は100%ではないことなどを伝えます。コンドームは避妊と性感染症予防の両方のために必要で、さらに「お互いを大切に思うなら二重の予防が必要です」と、ピルの服用も勧めます。

中絶にかかる費用などについても教えます。でも種部さんの授業では「中絶ありき」の言い方はしません。「産まない選択でも産む選択でも、幸せになれるならどちらでもいいと思う。でも考える時間はあまりない」。どちらを選ぶにしても早めに受診してほしいと呼びかけます。

アダルトビデオ（AV）などで間違った知識を身につけ、避妊しないことや暴力的な性行為を「正しい」と思い込んでしまうことへの注意もありました。「エロい動画を見てもいい。でも泣き叫んでいるのが自分のお姉さんや好きな人だったらどう思う？ 引いて見ること。AVはやらせ、暴力、一方的、商業的なもの。うその、作り物の世界だと気付いてください」

とくに訴えたのが「幸せに生きるために必要な力」について。自分はどうしたいかを見つめる力、自分を認めてほめる力、感情や欲求をコントロールする力、みんなそうだからではなく、自分の気持ちを伝える力。この「四つの力」を磨き、「言いにくい『ノー』を言えるようになって。自分を守ってほしい」と呼びかけました。

「性という言葉は恥ずかしいと思っていましたが、生きる上で誰にとっても大切で、偏見をもつ必要はないと分かりました。自分の思いを遠慮せずにはっきり言える人になりたいし、私の考えも尊重してくれる優しい人と共に生きていきたいです」（女子）

「中絶か妊娠かの判断も短い期間で決めなければならず、しっかりと先のことを考えて責任を持つことが大切だと思った」（男子）

「彼女ができたならデートしたり色々やりたいことがあるけれど、それは果たして正しく安全なのか、みんながハッピーになれるか考えたい。軽はずみな考えで人生を棒に振りたくないし、相手にも迷惑をかけたくない」（男子）

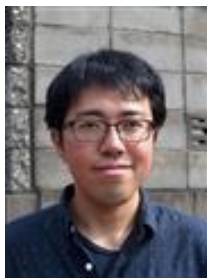
生徒が書いた授業の感想文の一部です。種部さんのメッセージがきちんと届いたことが伝わってきます。

老後の性 性的貧困の「無艶社会」とどう向き合う 坂爪真吾

産経新聞 2017年12月18日

ひと昔前、「死ぬまでセックス」特集が週刊誌で大々的に組まれたが、最近はお堅いNH

Kでも老後のセックスを取り上げるとき世である。近い将来、「100歳まで生きるのが当たり前前の時代になる」と言われる超高齢社会。その性事情について考えたい。(iRONNA) 増加する高齢者は性的貧困の「無艶社会」とどう向き合うべきなのか(写真はイメージ)



高齢期には4つの「ムエン」があるといわれている。1つ目は、人間関係の貧困を意味する「無縁」。2つ目は、社会的孤立を意味する「無援」。3つ目は、経済的貧困を意味する「無円」。そして4つ目は、性的貧困を意味する「無艶」だ。



現役時代にどれだけ性的に満ち足りた暮らしを送っていた人でも、超高齢社会においては遅かれ早かれ、この「無艶」に直面する時が必ずやって来る。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2024年には人口の30%が65歳以上の高齢者になるとされている。全ての人が高齢期の「無艶」に直面せざるをえない時代の中で、私たちは「生殖なき後の性」をいかに生きればいいのか。

枯れた存在

高齢世代の女性に関しては、「もうセックスは卒業して、性とは無縁の穏やかで円満な夫婦関係を送っている」というイメージ、そして単身の女性高齢者に関しては「性とは無縁の枯れた存在」というイメージがある。

しかし、それらはいずれも幻想にすぎない。『セックスレス時代の中高年「性」白書』(日本性科学会セクシュアリティ研究会編)のデータを見ると、パートナーとの性欲ギャップに悩んでいる生々しい中高年女性の姿、いくつになってもセックスへの未練や執着を断ち切れずにモヤモヤしている単身女性の姿が浮かび上がってくる。

「この1年間に性交をしたいと思ったことはどれくらいあるか」という質問に対する回答は、「願望があった」「たまにあった」を合わせると、配偶者のいる60代女性は42%、70代女性は33%に達する。単身者の場合も、60~70代女性の32%が性交への願望を抱いている。

高齢期の性を充実させるために必要なのは「性に関する自分なりのパートナーや居場所を作ること」だといえる。どのような場所であって相手であっても、どのような形の存在であっても、死生観ならぬ「私性観」=性に対する自分なりの価値観と行動原理に基づいて探し当てたパートナーや居場所であれば、自分を納得させることができるはずだ。

たとえ他人や世間からみて眉をひそめられるような状態、滑稽な状態に見えたとしても、誰を(何を)パートナーや居場所として選ぶかを決めるのは、あくまで自分自身。「私の性は、私が決める」という性の自己決定原則は、生涯を通して不変なのだから。

「蜘蛛の糸」

高齢者の性を「あってはならないもの」として否定的に捉えるのではなく、人間らしく生きる上で「あって当たり前のもの」として肯定的に捉え、最低限度の性の健康と権利がきちんと守られるような仕組みを作っていくこと。これから「超」超高齢社会を迎えるにあたって、私たちの社会に求められていることは、この一点に尽きる。

性は生殖の手段であるだけでなく、他者とのコミュニケーションの手段でもある。加齢によって社会との関わりを失い、離別や死別によって家族との関わりを失い、認知症や病気によって自分自身との関わりをも失ってしまった人たちにとって、性は外界と自分を結ぶ唯一の手段として最後に残された「蜘蛛(くも)の糸」である。

孤独の中で漂流し、暴発しがちな高齢者の性を「受け入れる」とまではいかなくとも、不必要に問題化せずに、当たり前のこととして「受け止める」仕組み、そして当事者にとっても支援者にとってもストレスの少ない形で、良い意味で「受け流す」仕組みが社会的に整備されていれば、私たちはいくつになっても安心して性的な存在であり続けることが

できるはずだ。

来るべき「超」超高齢社会で私たちが目指すべき社会の姿は、こうした「誰もが安心して晩節を汚せる社会」だと私は考える。

【プロフィール】坂爪真吾（さかつめ・しんご）氏 一般社団法人ホワイトハンズ代表理事。昭和56年、新潟市生まれ。東大文学部卒。重度身体障害者に対する射精介助サービス、風俗店の待機部屋での無料生活・法律相談「風テラス」の開催など、社会的な切り口で現代の性問題の解決に取り組む。著書に『セックスと超高齢社会』（NHK出版新書）など多数。

年金質問箱

Q 民間会社勤務30歳、障害を負ったら=回答者・年金問題研究会代表 秋津和人

毎日新聞 2017年12月18日

私は、新卒で大学から民間会社に就職した30歳の会社員です。2歳年下の専業主婦の妻と1歳になる子がいます。もし、今私や妻がケガや病気で重い

障害を負った場合、公的年金の障害年金はどのくらいもらえるものなのでしょうか。また、高校時代の同級生で、卒業後は同い年の女性と結婚し、家業の肉屋を親と一緒に夫婦ともどもやっている自営業の友人がいます。2歳の子がいますが、この場合はどうなるのでしょうか。

A 国民年金からは障害基礎年金、厚生年金からは障害厚生年金が支給されます。支給額は1級から3級までの等級によって異なります。1級が一番重い障害です。なお障害基礎年金には3級はありません。

自営業者は障害基礎年金だけが対象ですが、会社員や公務員などの厚生年金加入者は障害基礎年金と障害厚生年金が対象になります。またサラリーマンの被扶養者である専業主婦（国民年金第3号被保険者）は障害基礎年金だけの対象です。

障害基礎年金は加入期間にかかわらず定額で、2級は老齢基礎年金の満額（40年加入）と同額です。1級は2級の2割5分増しですので、2級で年額約80万円、1級で約100万円ということになります。さらに、18歳未満の子がいた場合、人数に応じて表のような子の加算があります。

一方、障害厚生年金はそれまでの厚生年金の加入期間に応じた老齢厚生年金額が3級と2級の支給額になります。ただし、加入年数が短いと年金額が少なくなって保障としての機能を果たせなくなりますので、25年未満の場合は、25年加入の額で計算します。また、3級は障害基礎年金がもらえないことから最低保障額（年額約60万円）が設けられています。1級は2級の2割5分増しです。加算は配偶者がいる場合に定額で支給されます。

質問者の場合、加入期間が25年未満ですので、25年加入分の障害厚生年金がもらえます。平均給与30万円、賞与4カ月だとすると年額65万円程度になります。さらに配偶者加算と障害基礎年金（子1人の加算）がありますので、2級なら合計で年額190万円程度です。

奥様や友人の場合は、障害基礎年金と子の加算だけになります。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つながちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

障害年金の支給額	1級	2級	3級
障害厚生年金	2級の1.25倍	加入年数の老齢厚生年金額 ※25年未満は25年加入の額	加入年数の老齢厚生年金額 ※最低保障 58万4500円
配偶者加算	22万4300円		なし
障害基礎年金	97万4125円 ※2級の1.25倍	77万9300円	なし
子の加算 ※18歳未満	1人につき22万4300円 ※3人目以降は1人につき7万4800円		

※年金額は2017年度額(年額)

